

わが国の対外経済協力について

1. 政府開発援助(ODA) と 非政府援助

非政府援助の比較 日、米、欧 質と量

政府開発援助.....時の政権の意思 プレ・変化

非政府援助.....個人の善意、寄付に基づくもの 友好関係の底流

担うべき分野

政府開発援助.....時の政権の意思、国益

非政府援助.....人道支援、安定的友好関係の基礎

非政府援助：チャンネルの拡張、量の拡大
民間の活力、税制

2. ODA 何をねらいにするか

従来 国益追求 タイド援助
(一方 伝統的に善意の提供が重視される)

政府援助である限り国の意思があることは当然

肯定されるべきタイド援助の側面
日本の物品を提供することを通じて日本式システムの展開

例) 日本製救急車の提供を契機に、日本式救命救急システムを展開。
日本製医療機器の提供を契機に、日本式医療サービスの展開

3. ODA の役割

経済的交流の促進、人的バンテージの強化
2 国間の関係強化

問題意識を持って 企画、提供、評価

「“ 貧しい ” から ODA 」 ではない。
経済水準は一つの指標であるが、それがすべてではない。
多面的な判断必要。

4. ODA に対する国民の理解

財政負担 (NI 比 0.7% 今の規模の 3 倍)
3 兆円の財源確保不可欠

旦那衆のふるまい
それなりの人の、それなりの役割・責任

一方で、国民の声「ODA よりも 国民生活に」

ODA : わが国の唯一の外交手段

国民に共感を求める
「消費税 1%を ODA 財源へ」